行政改革の政治・行政学

上久保　誠人

1968 年愛媛県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。伊藤忠商事（株）勤務を経て、2008 年、英国ウォーリック大学（University of Warwick）で博士号（政治学・国際学）取得。立教大学法学部兼任講師、早稲田大学国際教養学部非常勤講師、早稲田大学国際学術院客員助教などを経て、2010 年立命館大学政策科学部に赴任。専門は国際政治経済学。博士論文のテーマは大蔵省・金融制度改革の政策過程。「中央公論」等の論壇誌、ウェブ・ジャーナルなどで政治評論も行っている。楽しみは娘とプラネタリウムに行くこと。カラオケの持ち歌は推定 500 曲。

１．研究内容・目標

この演習では、日本などさまざまな国で取り組まれてきた「行政改革」を研究対象とする。

日本の 1990 年代以降は「失われた 20 年」と呼ばれる。しかし、この時代は同時に、「選挙制度改革」「省庁再編」など政治・行政改革が大きく前進した時代でもあったとも考える。この改革の過程では、改革推進を目指すリーダーや若手政策通、官僚組織内の改革への協力者が登場し、財界・業界などの利害を代表した政治家や官僚と激しく競争しながら、改革を推進していった。

このゼミでは、政策科学を学ぶために、あえて「政治」という過程に徹底的にこだわりたい。すべての政策は必ず「政治」という過程を通して決まるが、「政治」を通った政策は理想的なものからかけ離れてしまうと、しばしば批判されてきたのは事実である。しかし、「政治」が生み出す、さまざまなアクターの競争によるダイナミックで激しいエネルギーは、社会をいい方向に変えていくのだと私は信じている。

このゼミでは、「政治」という過程におけるさまざまなアクターの人間模様とその背景にある「天下り」「年功序列」などの慣習、「学閥」「閨閥」「企業の系列」や「メインバンク制」「財閥」などの政官業のネットワークや「根回し」「調整」など日本独特の意思決定システムを幅広く検証していきたい。そして、「日本型組織」とその組織の中での人間行動に対する理解を深めたい。

また、英国・ニュージーランド、カナダなど海外の行政改革の事例も積極的に取り上げていきたい。日本と諸外国の比較は、多角的なものの見方を身に付けるのに有益である。

このゼミではプレゼンテーション技術や、論理的な文章の書き方など、社会人として必要な能力･スキルの理論的・実践的指導も行いたい。講師の商社マンとしてのビジネス経験･海外留学･政治の現場での様々な話も交えて、堅苦しくなく進めていきたい。

２．運営方法

このゼミでは、個人単位でテーマを設定し、研究を進めていく。テーマは、行政改革に関するものであれば､「中曽根行革」､「橋本行革」､「金融ビッグバン」､「大蔵省改革」､「小泉構造改革」､「民主党政権の政治主導」など、なにを選んでもいい。地方自治や海外における行政改革の事例を取り上げることも歓迎である。また、財政、医療、社会保障、地方分権など行政改革に深い関わりがあるさまざまな政策を検証してもよい。

このゼミの運営は、各ゼミ生のプレゼンテーションとそれに基づいたゼミ生全員による質疑応答や議論を基本形態とする。ただし、いきなりプレゼンは難しいであろうから、最初は専門書を何冊か輪読して、基礎知識を整理しながら、徐々にプレゼン中心へ移行していければと考える。

３．テキスト・参考文献

各ゼミ生のテーマに合ったものを指示する。あえて入門書として全員統一の参考文献を挙げれば以下の通り。

竹中治堅『首相支配　－　日本政治の変貌』中公新書、2006
内山融『小泉政権：「パトスの首相」は何を変えたのか』中公新書、2007
真渕勝『大蔵省はなぜ追いつめられたのか』中公新書、1997

４．受講生に望むこと

細かいことを言うつもりはありません。「今より少しでもよくなりたい！」その気持ちがある人なら、誰でもこのゼミに参加する資格があります。

基本的にゼミというところは、プレゼンや議論が中心となるので、積極的な性格の人が中心となる傾向があります。しかし、例えば内向的な人が物事を深く考えていることがあります。だから、このゼミではいろいろなキャラの人に参加してほしいと思っています。１つだけ言いたいのは､「リーダー」「書記」「会計」「縁の下の力持ち」「ムードメーカー」「なごみキャラ」など、どんなキャラでもいいから、このゼミで自分に合った役割・居場所を見つけろよ、ということです。それが、これから社会で自分の存在価値を見つけていくことに、きっとつながっていきます。